

徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 夏の季語 上巻

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ2014 ～俳句へのいざない～』は2014年（平成26年）FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節（春・夏・秋・冬）ごとに、それぞれ3巻（上巻・中巻・下巻）にわけて刊行しております。

五月五日

今日の季語のご紹介は“端午（たんご）”です。

「端」とは初、「午」とは五という意味で5月初めての5日の日の事です。この日は男の子を持つ家では鯉のぼりをたてて武者人形を飾り柏餅を供えて食べたりします。

五月六日

今日の季語のご紹介は“鯉幟（こいのぼり）”です。

端午の節句にたてる鯉を形どった織物。主に戸外にたてて真鯉（まごい）緋鯉（ひごい）子鯉（こごい）とともに五色の長い布を垂らした吹流しが添えられます。

五月七日

今日の季語のご紹介は“矢車（やぐるま）”です。

“鯉幟（こいのぼり）”の先に取り付ける車輪型の矢の事です。

五月八日

今日の季語のご紹介は“筒鳥（つつどり）”です。

ホトトギスと姿は似ていますが〈ポーポー〉と竹筒でもたたいたように低い声で鳴きます。深い山が好きでなかなか姿を見せません。

五月九日

今日の季語のご紹介は“梅干（うめぼし）”です。

塩漬にした梅の実を日に干して作ります。アカジソの葉を加えて漬けることが多いです。

五月十日

今日の季語のご紹介は“起し絵（おこしえ）”です。

切抜き絵の組み立てにより芝居の舞台面や景色を立体的に見せる細工物で明治時代までは子供の手遊びでした。

五月十一日

今日の季語のご紹介は“新緑（しんりよく）”です。

五月の若葉の緑の事です。

端的にさわやかな緑の色彩感を表しております。

五月十二日

今日の季語のご紹介は“草刈（くさかり）”です。

夏は雑草がはびこる時期です。

皆さんも草むしりを行う事があるのではないのでしょうか。

五月十三日

今日の季語のご紹介は“日傘（ひがさ）”です。

夏の強い日差しをよける傘です。

昔は紙製の日本傘だったそうですが現在では薄色布地に絵模様の入ったパラソルに代わってます。

五月十四日

今日の季語のご紹介は“葛餅（くずもち）”です。

葛粉または生麩粉を煮てねり固めて三角形に切り糖蜜と黄粉をまぶして食べます。

五月十五日

今日の季語のご紹介は“鹿の子（かのこ）”です。

鹿の子供は初夏に生まれます。

生まれたての鹿の子は可愛く角もまだはえてないです。

五月十六日

今日の季語のご紹介は“茄子苗（なすなえ）”です。

苗床【（よみ；なえどこ）意味；植物を安定させて育てるために種より苗になるまで育てる場所】で育てた茄子の苗は5月初旬に畑に移されます。

五月十七日

今日の季語のご紹介は“飴湯（あめゆ）”です。

飴【よみ；あめ】を湯で溶かした飲み物。

昔は飴湯売りがあったそうです。

五月十八日

今日の季語のご紹介は“石楠花（しゃくなげ）”です。

山地に自生して栽培されるツツジ科の常緑低木です。葉は革質で光沢があり裏面には褐色の毛があり表面の緑と対照的です。

枝先に5弁もしくは7弁の花が10程度集まって咲きます。

五月十九日

今日の季語のご紹介は“筍飯（たけのこめし）”です。

タケノコを細く切ってご飯に炊き込んだものやタケノコを煮てからご飯に混ぜたものです。煮てからご飯に混ぜたほうが味わいがあります。

五月二十日

今日の季語のご紹介は“薫風（くんぷう）”です。

夏のはじめに若葉をわたって緑の匂いを伝えてくる様な南風の事です。

五月二十一日

今日の季語のご紹介は“郭公（かっこう）・時鳥（ほととぎす）”です。

2つの鳥はよく似ています。姿では区別が付きませんが鳴き声ははっきりと違います。

郭公は〈カッコウ、カッコウ〉と鳴きます。

時鳥は〈トッキョキョカキョク、トッキョキョカキョク〉と鳴きます。

五月二十二日

今日の季語のご紹介は“滴り（したたり）”です。

崖や岩のコケ類などから落ちてくる水滴の事です。

五月二十三日

今日の季語のご紹介は“卯浪（うなみ）”です。

旧暦の4月（卯月）現在の5月頃の海の波の事です。

五月二十四日

今日の季語のご紹介は“草笛（くさぶえ）”です。

草の葉を巻いて吹くと笛のように鳴ります。

また麦の茎も吹き鳴らすことができます。

五月二十五日

今日の季語のご紹介は“燕の子（つばめのこ）”です。
春から夏にかけてツバメは2回数羽ずつ雛を育てます。
一番子、二番子と呼ぶそうです。

五月二十六日

今日の季語のご紹介は“蠅（はえ）”です。
ほぼ1年中いて嫌われがちですが最も多いのが夏です。
「五月蠅」と書いて「うるさい」と読むのは5月頃から活動期になるからでしょう。

五月二十七日

今日の季語のご紹介は“鮎（あゆ）”です。
姿が美しく上品な味で川魚のうち一番人気があります。
岩につく硅藻類【(よみ; けいそうるい) 意味; 水中に単細胞あるいは群体で分布し褐色または黄褐色で2枚の硬い殻をもってる】を食べて大きくなります。

五月二十八日

今日の季語のご紹介は“螢（ほたる）”です。
青臭い匂いのする小さな虫で尻より光をほのかに放ったり消したりします。
ホタル狩りは夏の夜の風物詩の1つです。

五月二十九日

今日の季語のご紹介は“パセリ（ばせり）”です。
地中海地方原産のセリ科の二年草です。
葉に香味があり生のまま料理のツマとされます。

五月三十日

今日の季語のご紹介は“瓜の花（うりのはな）”です。
ウリ類の花の総称。
〈きゅうり、こぼちや、まくわうり〉などの花の事です。
花はたいてい白か黄色の五弁花です。

五月三十一日

今日の季語のご紹介は“作り雨（つくりあめ）”です。
料亭などの庭に水道を使い雨を降らせたり、滝をまねて水を落とす仕掛けの事です。

六月一日

今日の季語のご紹介は“天草（てんぐさ）”です。

〈ところてん〉や〈寒天〉の材料になる海草です。

海底の岩に生えて、色は紅紫色で細い枝状に広がっております。

六月二日

今日の季語のご紹介は“麦刈（むぎかり）”です。

大麦は梅雨前に、小麦は梅雨の晴れ間にあたりに刈り取ります。

刈り取った麦を運ぶ車を麦車と言います。

六月三日

今日の季語のご紹介は“守居（やもり）”です。

“壁虎”とも書きます。

〈とかげ〉に似てますが体がやや平たく尾も短いです。

夜に明かりなどに集まる昆虫を捕食します。

六月四日

今日の季語のご紹介は“袋掛（ふくろがけ）”です。

初夏時期、枝になる果物に害虫のつくのを防ぐため紙袋をかぶせる事です。